

星月夜顯晦錄
二編
 二

特
 遠13
 2208
 7



13 遠
2208
9 卷

星月夜顯晦録二編卷之二

目錄

○比企能負密謀露顯時政能負と二幡后を殺す

名越の亭は忠常蓮景を以能負を捕ふ

尼公の川下を以て諸軍北の川所攻む

○牧の方奸計忠常を滅す

時政の亭は仁田忠常を餐應凶

千幡君北条の亭より尾公の居所へありて

○實朝々三代の武將より頼家禅室を伊豆へ移

稻毛入道奸計二品禅室を修禅寺に引移る

星月夜頭晦録二編卷之二



此企能員密謀露頭北條時政能員と一幡君を殺す

北條遠江守時政の亭より能員入来とて返答をへ珠戮の用意をとりし。市川別當五郎と中野四郎兩人より矢を射せし。能員又仁田四郎忠常と天野民部入道兩人腹巻を穿し西南の服戸を扣居り能員入来せし。捕へ珠見とのまへより時政も甲冑を脱し。怨敵殊伐の志あり。今やとおろし程より比企判官馬上に出来ぬ。勸門に入ると。廊の皆脱し升妻戸を穿て。北面よりあつんとて。忠常運景造り合々の狼戸より。主向ひ声をも絶て左右より。能員が両手をさすり引居りしを。判官のひらりし。狼籍と云つ。振放

えとりけけども。勇力の兩人は捕られし。うまんが。かゆ。働た。ゆ。郎
 本ど。も。を。を。驚。地。周。章。丘。あ。ん。と。さ。中。中。四。郎。別。當。五。郎
 本。踊。出。或。は。對。死。ま。る。生。捕。條。と。と。働。と。七。人。の。郎。亦。六。人。の。對
 一。人。の。郎。表。門。へ。逃。出。堀。を。越。て。逃。ま。る。け。間。は。大。老。蓮。景。亦。結
 負。を。引。立。て。裏。の。山。下。に。連。形。終。は。首。を。對。り。叔。又。道。む。一。人。の。郎
 從。者。亦。ま。な。る。一。族。亦。ま。の。族。子。を。告。る。あ。ぞ。子。息。郎。亦。大。に。驚
 也。即。時。は。若。君。を。守。護。し。北。の。川。所。は。川。筆。り。謀。反。を。る。を。これ。後。て
 村。の。次。足。ま。と。と。と。尼。公。下。知。り。ひ。江。間。小。四。郎。美。時。同。太。郎
 泰。時。小。山。武。彦。守。朝。雅。時。政。の。小。山。左。衛。門。尉。朝。政。同。五。郎。宗。政。結
 城。七。郎。朝。光。昌。山。次。郎。重。忠。同。六。郎。重。保。加。藤。次。郎。景。廣。同。本
 郎。宗。朝。仁。田。四。郎。忠。常。八。尾。藤。司。友。景。亦。雲。彦。の。と。く。あ。い。ひ。至。る。

能。負。子。息。比。企。上。市。同。三。郎。同。四。郎。同。五。郎。河。系。田。次。郎。能。負。の。比。企。系
 十。郎。親。景。中。山。五。郎。為。重。粕。谷。右。兵。衛。尉。右。守。三。入。の。能。負。が。聲
 一。つ。ふ。う。と。計。美。は。組。し。一。亦。あ。る。が。ゆ。道。ま。る。を。あ。り。ひ。死。を。願。を。防。は
 戦。小。の。と。あ。る。あ。あ。子。八。尾。藤。司。知。系。加。藤。以。房。系。廣。同。系。朝。等
 魁。首。は。す。と。攻。ま。る。され。と。由。敵。兵。を。と。る。必。死。と。い。う。て。戦。ひ。る
 味。方。の。先。陳。切。ま。り。是。系。廣。系。朝。亦。病。を。養。り。引。退。く。是。は。も。ん。と
 味。方。難。攻。は。ん。ゆ。あ。ぬ。又。昌。山。次。郎。重。忠。は。あ。い。中。の。あ。勇。士。な。れ。と。あ。那。の。と
 騷。動。を。ほ。謀。反。は。な。る。の。と。申。ゆ。道。ま。る。と。必。死。を。あ。り。ひ。あ。る。は
 然。又。殊。戮。地。川。に。及。び。る。が。後。黨。出。大。乱。あ。る。と。一。族。は。元。時。も。よ。く
 殊。戮。を。と。る。静。謐。な。り。め。ん。は。あ。る。と。味。方。の。敗。軍。は。入。替。り。進。ん。だ。が。戦
 時。を。も。緒。勢。亦。皇。忠。勇。敵。を。り。つ。攻。る。の。上。は。殊。戮。踵。を。め。ぐ。と。と。



星月夜二編卷之二



北条の忠告の言
忠常違景と
及て比企判官と

捕へ

星月夜二編卷之二

かくごと。皆頼母。くさひ。後陳。まきん。て。威を扶く。敵兵。由。畠山。と。つる。よう。
 大子の。故。と。あひ。く。ま。ま。不。祝。京。中山。を。重。拍。屋。右。季。河。原。田。次。郎。
 ホ。ま。向。く。ま。も。死。ま。ぶ。ま。余。ま。れ。バ。坂。東。に。双。の。勇。士。畠。山。の。幸。ふ。ら。を。死。
 ま。ぶ。ま。と。ゆ。り。う。ま。ま。あ。り。合。る。中。の。恥。を。あ。ひ。我。を。先。う。武。名。を。
 落。ま。と。挑。戦。小。重。忠。ハ。一。年。あ。り。と。い。ど。も。子。息。重。保。を。ま。め。郎。木。本。
 勇。操。沢。の。ま。れ。皆。あ。り。て。武。勇。技。群。の。軍。あ。り。良。将。の。下。又。弱。兵。な。く。
 士。車。又。至。る。ま。め。風。美。又。隨。ひ。武。勇。を。あ。ら。る。り。の。り。嫡。子。六。郎。重。
 保。ハ。又。あ。ら。ぬ。大。力。の。若。者。あ。り。大。太。刀。を。打。振。一。番。又。馳。向。ひ。河。原。
 田。次。郎。ま。ま。あ。り。合。皆。く。殺。ひ。け。河。原。田。の。ま。款。ま。ま。大。刀。を。ら。落。ま。れ。
 逃。ん。と。ま。る。を。重。保。追。う。け。切。付。一。又。學。政。の。力。士。勢。ひ。ま。ま。新。れ。ハ。甲。
 武者。を。大。衆。ゆ。ま。切。倒。ま。つ。わ。く。車。馬。操。沢。切。先。より。火。を。出。し。攻。

我。ひ。ま。ま。あ。り。有。季。祝。景。ホ。あ。り。牛。痴。を。あ。ら。り。我。ひ。屈。し。て。ま。ま。ま。ま。ま。
 原。十。郎。を。ま。ま。と。や。ま。ひ。え。内。より。け。け。入。り。殿。館。又。火。を。放。ま。ま。ま。ま。右。
 季。為。重。が。軍。皆。引。入。り。を。畠。山。が。郎。後。が。由。追。入。ん。と。ま。ま。ま。重。右。制。
 一。と。進。ま。ま。門。前。又。加。る。を。後。陳。の。緒。ね。が。あ。り。何。れ。も。入。り。ま。ま。ま。ま。
 同。ろ。の。重。忠。を。敵。に。や。滅。亡。せ。り。ま。ま。進。ま。ま。ま。と。諸。軍。を。休。め。あ。り。
 中。比。企。三。郎。同。四。郎。同。六。郎。を。始。め。右。季。為。重。祝。景。ま。ま。外。一。族。郎。
 後。若。君。の。口。前。は。出。悉。く。自。害。せ。り。ま。ま。若。君。の。口。腹。若。狭。尾。若。君。を。害。
 し。ま。り。ま。ま。身。中。自。殺。し。て。煙。の。中。へ。飛。入。り。死。う。り。ま。火。を。熾。ま。ま。昇。り。殿。
 内。悉。く。燒。失。せ。り。ま。重。忠。下。知。し。火。を。消。ま。勝。関。を。揚。引。退。く。抑。
 今日。の。建。仁。三。年。九。月。二。日。あ。り。ま。の。発。せ。り。今。朝。辰。の。初。刻。之。尼。公。夜。
 前。より。二。品。の。方。は。在。り。密。旨。を。使。時。政。又。若。多。し。時。政。廣。元。又。鐘。し。法。

員か方へ使者を送りし。同日午の刻。結負名越の亭に珠せ
 らる。一族の所へ移り、討てを向するを申の刻。合戦一時、殊に西
 の刻より亡び、僅に秋の日の中より、謀反人象頭。滅亡せしむ
 と古今に例をばすとす。諸勢尼の所へ入り。次第一々止む。
 時政即ち大岡判官時親を北の所の焼討せしむ。死骸を實檢
 せしめ、その所より、今日、我功の輝、幾のじ、富士山の武勇は、碎せ
 敵後屋へ退る。賊弓と。滅し重忠の大功と。され、敵殿内は火と。載
 自害せんとす。付、味方軍へんと勇し、重忠制し、門前又和居に
 一、所存あり、その美るや不害と。諸士より、勇たれば、重忠答へ、討
 を兼り、身命を抛ち、合戦を挑し、竹を別の所存あり、但、法
 勢を押さへ、君臣の礼、朋友の義を存る。重忠の所、二品の若君

在外、敵の肝曲あれ、我、兵具を率、向し、之、若君、幼
 かり、幸、う、紙、初、る、ま、い、ゆ、は、礼を重し、撰、進、入、る、二、つ
 みの防戦の軍。昨日、ま、た、席をさす、下、朋友、う、力、の、限、に、戦、ひ、叶、い
 ざるを、え、て、引、退、る、人、手、の、ら、む、自、害、せ、と、武、士、の、ま、た、ひ、る、れ、が、
 公、も、自、害、せ、と、え、か、為、の、美、を、ぞ、人、と、三、つ、の、味、方、十、の、終、利、え、え
 する、礼、を、失、は、れ、美、を、失、ひ、す、絆、を、さ、り、入、る、が、敵、を、非、る、ま、向、ひ、死、す、
 ね、ひ、は、働、け、る、が、味、方、ま、た、損、亡、多、う、ん、軍、は、勝、り、利、を、失、は、れ、是、之、
 或、は、敵、道、ま、ま、る、う、法、結、外、は、あ、り、す、裝、束、も、早、く、殊、し、味、方、の、損
 亡、も、顧、る、ぬ、あり、これ、は、左、は、非、を、左、し、右、は、右、を、滅、亡、する、軍、之、行、ら、ぬ
 礼、を、失、は、れ、美、を、全、く、味、方、は、損、亡、多、う、ん、ま、た、と、利、を、存、し、こ、こ
 こ、を、法、勢、を、押、さ、し、と、す、れ、が、法、士、大、に、感、し、る、急、な、場、所、は、よ、う、く、由

左の如き事なす。等閑の事なす。威勢よく止る。時政
 氏時同じ。是を感賞あり。中々俄に名をたせしむ。此人へ平
 常礼義を重し。信を失ひ。勇士なれ。動靜自下。度は中より
 中野五郎能成。細野四郎定則。が輩。社員又陥ひ。二品又昵
 近せ。輩とく。翌日召禁め。その罪を礼する。おるは二品の
 大病少。一は扶方よ。却せ。勲又寿等を保ひ。若君若又社員
 亡の由。噂し。甚ど。驚を怒り。社員へ格別。か。子竹を臣とて。時
 政。名を害し。天下を奪ひ。と。斗や。王莽か。悪由比。よ。早
 く。逆臣を誅せ。死する。我志を保せ。と。憤り。其。怒
 堪。く。必。石。堀。藤。次。家。を。石。時。政。又。子。を。誅。せ。し。む。作。渡
 され。法臣の内。勇。功。の。輩。よ。命。せ。し。む。と。お。り。り。山。重。忠。の。時。政

知耳。北の。所。の。封。手。よ。向。ひ。一。者。な。れ。が。怨。敵。コ。等。一。和。田。美
 盛。一。族。も。廣。く。侍。所。の。別。當。あり。智。勇。兼。備。の。者。なり。仁。田。四。郎
 忠。常。へ。深。く。恩。を。お。り。り。先。け。取。人。な。作。付。れ。北。条。一。家。を。亡。せ。し。む
 と。の。り。二。品。は。直。書。を。藤。次。親。家。に。渡。され。我。作。合。り。依。り。此。由
 書。を。あ。人。に。達。せ。和。田。美。盛。の。書。を。お。り。り。を。恨。み。名。を。二。品。命
 重。し。と。云。ふ。が。中。大。病。の上。無。く。此。形。目。く。内。と。瘥。ま。の。名。ゆ
 由。あり。殊。更。尼。君。の。け。け。ひ。と。く。廣。え。と。老。臣。亦。拜。氏。の上。に。て
 社員。を。誅。せ。し。む。が。時。政。私。の。事。と。云。ふ。若。君。の。ゆ。り。早。竟。初
 亦。か。獲。せ。し。む。道。ぬ。初。至。る。殺。害。す。知。上。時。政。外。戚。と。し。て
 一。門。廣。く。女。嫁。る。が。尼。の。臺。在。る。也。諸。士。皆。り。て。北。条。の。下。知。り
 属。も。然。る。故。今。け。此。書。を。抄。り。謀。斗。を。る。が。社員。同。前。謀。反。人



三日月の夜



尼公の
下知
諸將
北の
所
と攻
む

三日月の夜

と忽ち殊戮を蒙る。況や時改ハ千幡君を守護し奉る。其
を討ハ逆臣するべし。君命由天下の爲すべし。其を變し。
郎時又件のゆゑをりて尼公の所又まゐり。あつぐの由を中へ時改
及び和田殿の誠忠感入る。當君ハ疾病又犯す。正久を
亂し在りぬ。作を弟からりぬ。皆みく。能負が當る。使者を
勅ち親家らを罪人する。尼公へ所へ二孫小次郎初光をりて。
殊戮せしむべしと有る。親家仁田四郎忠常へハ使を勅め。途中
不出命。初光大勢の士卒をみく。搦捕り親家を殊し。忠常り
君命又惑むる。あんと私猪りの由り。時改を疑ひ。忠常
忠常の人よく能員を討し切ぬ。何ぞ君の頼を背りん。殊更昨日
廷尉を謀る。あつぐの忠常を思ふ。恩賞を少はせんとあふぬ。

是よりして延引。明日必し彼人を賞を下す。其日の能負が余れ
全茂のこころ

北條室家牧の方奸針仁田忠常を滅す

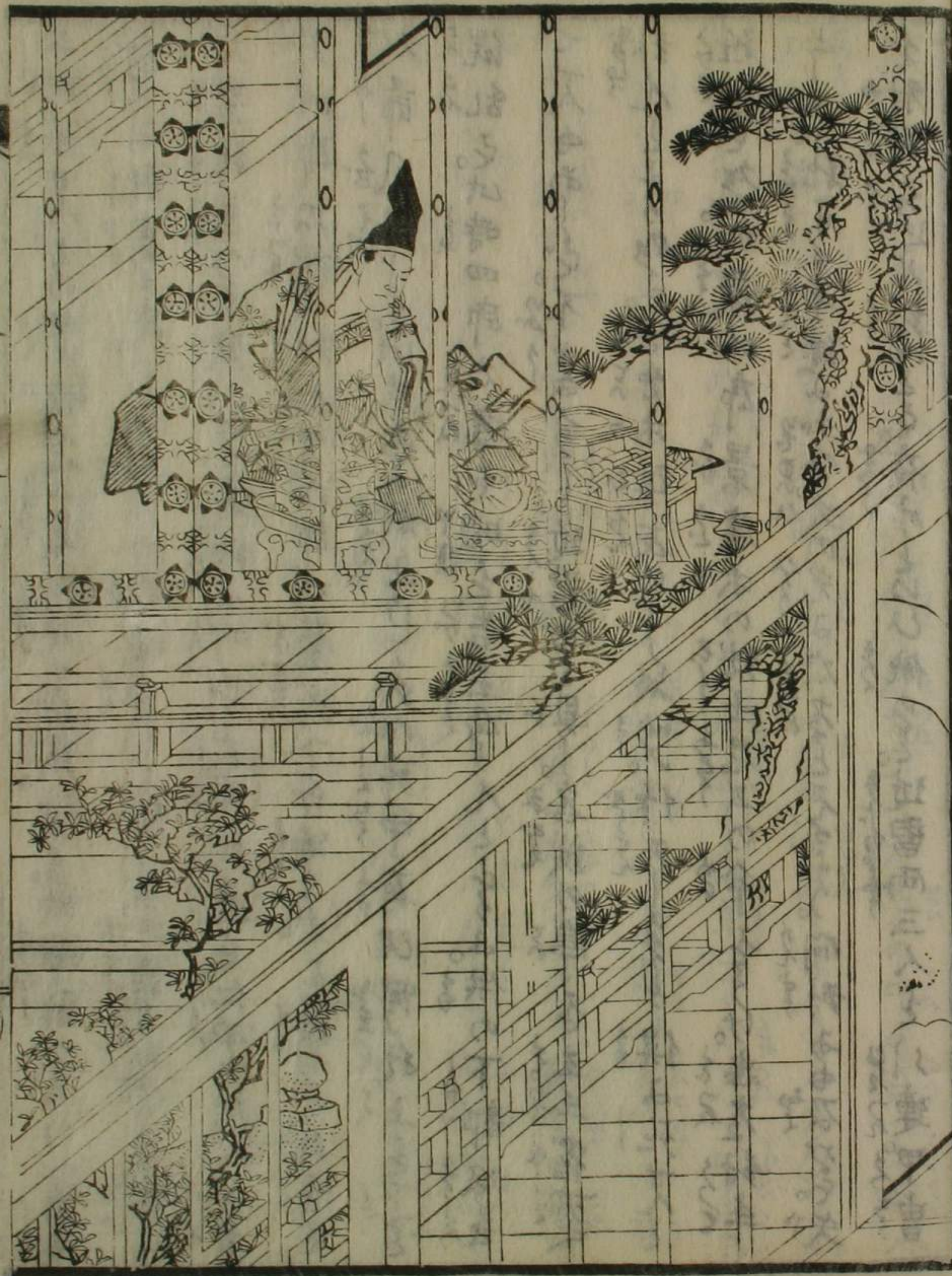
北條の忠常が賞を納りんと名残の亭へ招れ仁田ハ早朝より先
へ其の緒。頻々大功を賞せし。困窮致し酒宴を催し。種々の食
をた常由懇切を慮し。敬獻を傾駭断り及人。時改の室
家牧の方。意飽ちて奸曲あり。夫を送り。諸人を疑害すること
漢の呂后樊噲が妻呂須の妹。か為所由肩あつぐと以て。時改
保くその詞を信し。能人を疑人往昔の秋容の羨慕あり。時改
色情よ惑盡す。ト多と申あり。其の生るる老嫗。嫉妬俚邪の言を
宗ら。我は獲りぬ。合する者の君の忠臣と以て。殊死す。

めく顔む。此比仁田忠常を憎とあふく。仇せんとらひ居。如今度
十功ををせりし。時政厚く款待し。教をえり。例の如きを度し。
悪智を廻し。夫を困らむ。忠常は己を君の密意をよみし。
う。愛めく君と書せんとす。聊の功あり。る。愛るへり。人のを
量り難き世の中る。れ。用をえり。肝要より。と。時政笑く
忠常は。及。我。く。底をまれば。何ぞ別をあらんや。彼若害のぶ。
て。館。又。あ。つ。て。争。へ。酒。宴。を。催。え。ん。鏡。の。中。入。ら。せ。ら。れ。と。す。と。女
の方。押。送。し。君。の。正。直。さ。る。心。知。り。入。も。左。ら。そ。の。ん。ら。の。け。る。火。網。を
抱。れ。ら。ふ。場。ら。う。へ。入。を。導。け。ん。と。あ。め。り。の。表。入。魂。の。辭。を。よ。せ。し。分
を。許。さ。せ。不。平。を。討。ん。と。す。る。を。謀。及。人。の。要。と。り。た。て。今。下
世。上。人。の。を。安。定。さ。す。と。も。我。ら。の。よ。氣。を。は。け。ら。れ。し。一。時。の。難。め。お

りのふゆ。す。つ。た。も。二。品。加。貝。負。め。り。れ。め。の。あ。く。深。く。思。を。着。け。居。と。白
ふゆ。君。の。頼。も。り。や。遠。背。ら。ば。汝。す。匹。夫。下。郎。と。情。の。思。を。お
か。命。を。許。ん。ご。う。車。あり。況。や。武。士。の。身。よ。於。て。や。殊。は。彼。の。武。勇。の。譽
ある。ま。ん。と。ん。え。ん。ご。頼。と。あ。く。君。の。命。と。も。も。又。は。依。て。の。と。と。す。
と。厚。恩。の。君。命。争。う。消。え。を。ぞ。ん。彼。り。當。家。は。信。を。あ。り。と。す。う。の。れ。れ。と
白。地。に。や。ぐ。和。田。美。盛。ハ。緒。士。別。當。の。職。を。居。く。當。家。は。社。ぶ。大。尉。され。た。
織。を。以。て。伴。の。ゆ。を。お。案。と。忠。を。た。れ。一。國。の。住。人。と。く。今。日。幸。會。
あり。一。言。由。その。う。に。及。び。つ。る。當。家。を。避。け。る。友。と。し。て。り。や。と。ん。と。や
い。ん。是。亦。の。礼。義。彼。卒。う。存。せ。さ。ら。ん。お。ろ。伏。願。し。包。ご。君。を。欺。さ。針
んと。と。女。姓。の。も。別。と。は。是。礼。の。必。ま。い。め。よ。天下。の。後。見。は。り。身。と。す。
は。云。分。る。ハ。結。く。送。入。申。め。の。る。よ。ん。千。と。底。を。探。え。ら。べ。し。と。は。か。や。と

斗少の口疑ひのよん五音顔まきも悟まののあては酒宴よる
 よも何ひもへと誠しやふ純言しけまが時政忽ち是を遂ひ良疑ひ
 のお生どりま何ひ見ままことと再び酒宴の席も出るみぞ牧の
 方仕儼しうると天つ向ふ人暮方よ及びりる時分はとあてま謀
 畧服公の家身まや含たれ畏と件の郎木仁田木老か供のりのよ
 近づれ密結たるの汝が主人と謀反の企るま奥みと殊せま
 定めて其方達も今は搦捕らる疾速にま余り不使ま
 まる心と吾告もせるとまとま真顔よ味まやるま
 ま驚れ元来今朝より爰ま終日待りま主人の出身ま
 まる大又怪ま世上物難れ中まや悠々と長坐めんやま比企判
 官もけ館もけ封まるとめればり左の美りま案づつ待籠る知れけ

詞を真とそ切込うとも大家よ屈竟の族集居ると力
 の乃か知るは宿所へ法進まると取のも取敢ま早く
 逐り太常ヶ才仁田五郎同六郎木よ斯と告たれば皆く兄の帰
 宅進れを不家も知更相る一品の使者来り一も急そのこと
 不依と殊とる者もらん追討討手らま必ま
 の殊を最の上もけ知みと死せんま北条父子の中ま人等も討て
 替憤を散まると兄才一族家の子郎木三十餘人甲冑より箭
 を獲へ北条の亭へと打出るま受時ハ尼公の所ま在り告るのあり
 まるバ所へ推系せるとま二死至り所へ乱入りま受時の討
 と鳴り散ま矢を兵美時ハ何れぞおと太老か二品の命も墮
 謀反の企のめるとま在合緒ま下知を傳へ是を防る



時政の亭
仁田忠常
應の
圖

小討死せんとの覚悟あり一足も退らざれば死にせらる。け駿動よりうて。諸臣
 追々馳参りて。三十餘人の者も勇ことりども。入替る勢あり。向て
 大勢馳重つて。残ひる者も終に叶は。大平討死と。仁田五郎の波を
 野に即ち綱を討て。才六郎の臺所へけ通り。火を放つて。自害を
 け節風烈しく。け火は燃上りし。火所中再び愕然上を下と
 混乱を。け時四郎の者も。暇を告まゆると。供の下部及去
 て入由ありと。不意あり。近習の具。名越の亭を。主出宿所へ
 卦んとする如く。舎舟木謀反のや。火。作天一より。俱に死せんと
 近由を。加藤以郎景康木の。猪士尼の命を。忠を討て。牛
 け。能ある手達。出合。火の光。火を。向討。あ。及。と。夫
 を討掛る。夜中。と。ひ。俄。と。近習。兩。三人。を。川。連。甲。曹

由。是。や。夫。夫。度。は。討。殺。され。今。は。た。一。人。大。勢。の中。は。在。り。お。戦。人。
 け。由。名。越。へ。注。進。する。如。く。火。の方。は。ら。を。油。引。り。入。り。と。多。ひ。つ。る。
 火。を。な。し。り。と。の。残。念。さ。う。と。や。時。政。も。存。ま。ざ。り。た。を。討。て。け。
 遠くへ。け。追。う。け。と。家。臣。も。大。勢。遣。り。る。と。残。ひ。命。は。ま。
 け。見。接。て。攻。め。あ。む。鬼神。も。欺。く。武。勇。の。た。を。な。れ。数。百。の。敵。を
 破。る。と。社。ど。ろ。踏。み。討。死。を。遂。げ。り。聖。人。君子。も。邪。智。を。み。ま。
 謀。る。に。は。必。ず。是。か。為。り。と。入。り。を。全。く。智。の。拙。さ。の。と。思。ふ。
 八。言。道。を。ち。る。也。邪。の。智。を。知。る。と。悪。人。の。為。は。不。時。の。死。を。と。
 正。の。道。は。武。勇。の。た。を。牧。方。の。奸。斗。に。陥。り。皆。討。て。一。族。を。亡。と。す。
 武。運。の。尽。ぬ。如。く。云。う。と。非。ず。は。次。を。さ。す。北。条。時。政。が。室。家
 の。明。家。を。感。じ。賢。妻。の。深。き。恵。男子。も。及。び。と。秘。し。け。れ。り。四。立。日。の

同比企能負が一族より餘妻の死亡なるべし人怖畏の多
 きを今日ハフガ刃の上とんと更又妻を奪ふべし世上抑強か
 しく。乱國の基と私結ゆ。時は二品の病日を追々快く又由
 成老ホハ完功のナ。サ一戸は勢揃増するといふ也。あきらむ
 樹る。唯續けつままの如。剣尼公の口は思ふべき。病病の
 の壺酒超ふのあられハ全快の度量が。我ハ國勢のとおも
 らん。身ハ落飾りぬ。み承く保まぬ。このやめ。その様
 出家を欲めぬ。か更新家々守念。残念を思ふ。病才の
 口もあらば。是非くハゆめぬ。終ハ飾を為さぬ。よふ
 時政無く企めば。口書者千幡君を武およ。まな。沙汰
 九月十日厄君の口所より君君。千幡君。北條の亭は移る。これハ若君

ころころと執権時政執り守護し。あることわん。け。時政
 牧の方の訪め。送ひ。密謀を存し。迎。り。わ。家督乃
 沙汰より。二品ハ落飾りぬ。君の代。督と。時政自らの書
 せり。諸臣へ先代の通り奉。儀。あ。さ。今。一。は。さ。つ
 時政自。武將同前の威。執。ま。盛。る。じ。う。が。あ。ま。れ。軍。ハ。吹。翠
 こと。追。後。経。済。を。さ。し。當。教。を。智。の。り。の。は。を。可。怪。た。
 時の持。威。又。押。言。を。發。する。の。は。殊。更。千。幡。君。北。條。の。亭。に
 在。る。か。も。諸。臣。を。彼。館。と。系。上。さ。る。あ。た。門。前。の。市。を。さ。る。こ。懸
 昌。北。條。の。榮。花。け。附。と。さ。る。な。り。終。る。は。時。政。の。室。家。牧。の。方。ハ
 女性。の。身。も。サ。双。の。深。惡。を。巧。企。す。千。幡。君。を。害。し。な。り。北。條。の
 天下。と。さ。る。時。政。と。こ。の。ほ。ぼ。の。ほ。る。ゆ。へ。炮。子。で。榮。耀。を。さ。る。と。の。謀

ありき若君の加入を勅め難き偽引ありしが密に収ひ教害の如
 き思を廻りて元來頼家卿の病氣を憂ふも亦つて。千代君を以て
 督とておとする事旨内々京都へ奏聞あり。又能負殊伐の後即時
 子ける住進及び宮内少輔等より牧の方へ。その事執しあるべし未
 京都より宣下されたりしをるべしと。頻りに害を被りて透せ
 伺ふとゆいども若君の乳母阿波局女共うれども亦智癡明りて太
 深く。若君北條の亭へ入せ給ひてより。八方より配り片時も油
 煎るる。奸曲の族間を窺ひて能く其のまをさす。阿波局女
 の方より奉勅。万よりおぼしむ。覚えし。くじ館に並立るべし。其老
 と云ふ。若君を若君の守護人となし給へ。その身は密に尼公の御
 所へ取り上らる。若君遠州の亭へ渡らせ給ふ事。直に似せられ。

はしく故の方の辨をうくる事。害公ありし。似たり。大切の若君の傳帥
 子頼が。唯けけ所へ逆たり。此側をたす。此身人を縛せり。ん
 王とておぼしむ。長く彼所を在る。定て變り出せり。し。
 幼給ひて。委細に。入。尼公。驚。百。猛
 母の底。且。ぬを存。居。直。迎。早。連。江。間
 矢時三浦。結城。胡光を。迎。時。政。の。宿。又。見。さ。る。時
 政。の。也。も。若。君。入。の。後。也。り。館。を。所。乃。ん。と
 ろひ。居。る。也。俄。に。迎。ひ。來。り。が。大。に。驚。を。思。ま。諫。畧。を。り。さ。る。
 とめ。百。少。や。と。若。君。の。供。也。尼。公。の。也。至。り。自
 を。辨。り。巴。尼。公。別。の子。細。い。は。か。本人の。後。又。並。れ。扶。持
 し。身。を。爲。と。也。返。答。あり。北。條。の。亭。也。僅。四。五。日。の。也。



山崎の松林

六十一



せんせい
千波君
北条の亭
尼公の
心所
心所
心所

尾形作左衛門

六十二

あつ。再び川下よぬ。色あふか。妖曲の笑ひを免れ多ひたり。是偏よ
阿波の局の右臣よあふ。牧の方へ折角を尋り。夫こそく先。こも
君を近し。奸斗空しく。其れが本立る。あひ。が。狩内。悪謀を
興し。し。れ。

實朝卿三代の武將とて頼家禪室を伊豆へ移を

去程に禁中よその強食の許まより。千幡君を後立位下よ叙せ。と

征夷使強倉三代の武將宣下り。時よ建仁三癸亥年九月

十七日あり。法臣群候しく。慶如を述。自終と人。公安堵。強倉静

鑑よる。是より。て。山。時。政。ハ。前。の。武。將。家。々。禪。室。の。病。氣

追よ。法。又。つ。の。の。強。倉。よ。ま。ん。と。い。ふ。れ。は。至。則。よ。入。川。隱。居

と。せ。や。え。と。尼。公。よ。す。て。同。廿。九。日。家。禪。室。を。伊。豆。の。後。岩。寺

へ。送。り。し。る。是。皆。北。条。家。々。を。後。め。て。あ。か。へ。し。の。日。己。の。刻。よ

強倉。進。發。先。陳。の。隨。兵。百。騎。次。よ。禪。室。川。奥。あり。傳。の。局。女

中。川。左。右。よ。役。ひ。小。舎。人。重。入。後。陳。の。隨。兵。二。百。騎。既。よ。後。岩。寺。よ

へ。せ。ま。ひ。て。後。へ。む。之。よ。配。所。同。前。よ。同。ひ。ま。の。よ。さ。る。者。さ。る。者。憂

牙。の。上。よ。さ。る。せ。ま。ひ。と。痛。し。け。一。向。川。病。氣。あり。逝。去。め。ふ。是。等。の

教。と。あ。ら。ま。れ。は。よ。川。平。愈。ま。る。と。前。業。の。用。を。や。い。え。ん。初。又。強。倉

代。替。り。ま。れ。ば。京。都。の。守。護。大。功。と。て。武。將。守。朝。雅。を。上。洛。せ。り。也

ら。時。よ。若。君。川。元。服。の。規。式。を。初。め。ま。ん。と。て。同。年。十。月。八。日。を。ト。一

定。め。廣。元。を。え。り。め。小。山。朝。政。和。田。茂。盛。畠。山。重。忠。足。立。景。盛

中。条。家。長。亦。侍。下。り。坐。し。江。間。小。四。郎。茂。時。左。近。太。夫。近。廣

兩。人。雜。具。と。持。来。て。若。君。坐。し。若。多。く。遠。江。守。時。政。外。戚。後。入。の。局

これハ。理髮の役又候。前武守美信加冠を勤む。則ち諱
 を実姓と号する。翌九日新君政正始之。吉書終く。梶原孟
 酒の依めん。其後とらめく甲冑を忌せり。又馬は予の。時
 政正を扶持す。その後ハ弓を射る。代始の款式あらばと
 て。和田茂盛的を献じ。あや射牛の中より。一皮を取らぬ。
 海野小太郎幸氏。榛谷次房重就。是月二日。隆範。甲子
 季隆。和田平太胤。長藤。四郎。清敏。結城七郎。朝光。赤狩。等々
 首尾よく。調ひ。名万歳を祝し。退京。同日。右兵衛佐。任
 せられ。その年。既暮。建仁四年正月。改元。元久。元甲子年
 とす。然る。禪室頼家。郷ハ。豆別。ハ。隱居。と。いふ。押。同。前
 明暮。ハ。伝。ハ。前。ハ。花。麗。と。出。され。ハ。波。の。終。方。間

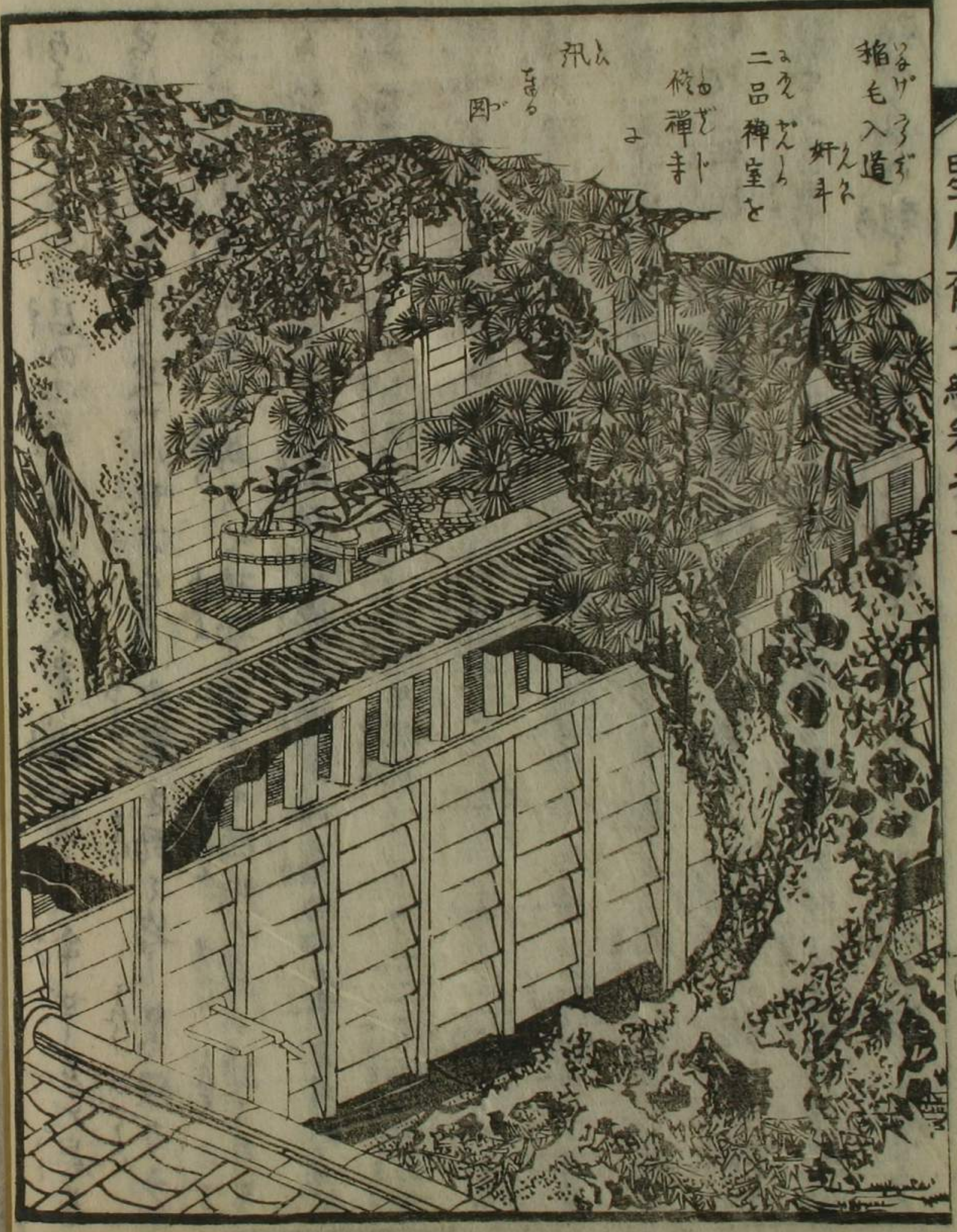
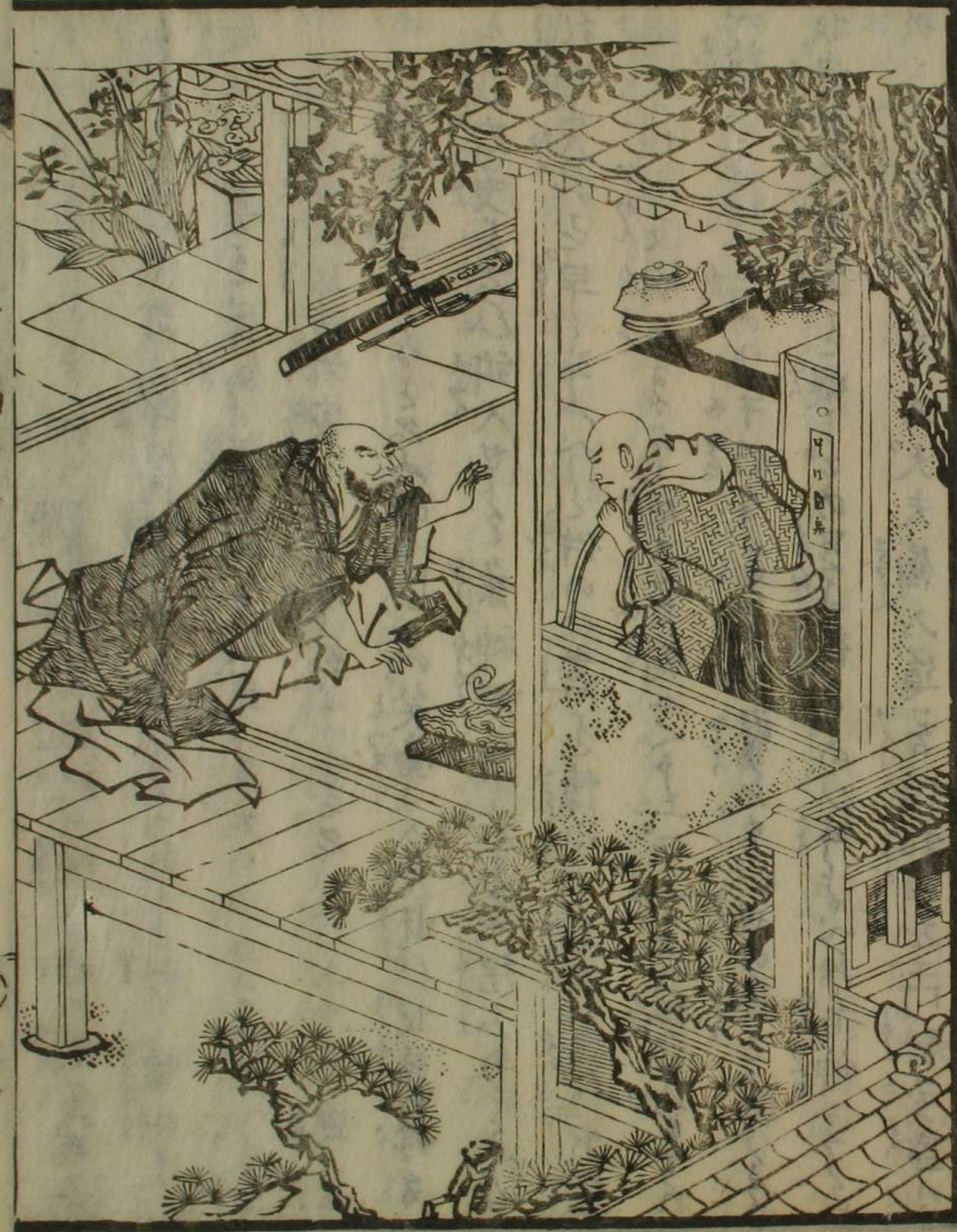
う。若君の。見。ら。る。志。と。り。ん。隙。を。ら。れ。ハ。万。事。の。つ。け。時。政。の。斗
 ひ。を。恨。ま。ら。し。渠。が。為。り。れ。住。居。を。と。り。その。口。惜。さ。し。我。子。ら。時
 政。又。執。せ。し。是。家。督。ハ。才。又。奪。是。一。う。さ。ら。ぬ。怨。む。時。政。一。人。を。亡。せ
 さ。げ。け。我。獨。を。閑。ぐ。べ。と。是。の。と。あ。り。し。今。の。ハ。身。あ。い。れ。を
 終。つ。せ。り。ハ。と。も。る。ハ。ハ。わ。の。軍。由。北。条。の。手。前。を。憚。り。死。し。進。ん
 る。の。の。と。ら。れ。た。後。又。其。念。の。月。日。を。送。り。申。す。我。ま。故。の。方。へ。去
 る。年。以。來。の。思。謀。守。り。く。実。朝。々。々。せ。り。ハ。急。又。練。り。ある。と。終。ん
 だ。れ。の。時。命。を。持。せ。非。執。せん。と。あ。ら。せ。り。又。遠。處。を。廻。り。終
 謀。亦。然。る。ハ。終。つ。を。燒。方。の。その。の。ち。う。さ。ら。ぬ。我。ら。ハ。一旦。癡。去
 の。禪。室。也。と。り。と。い。け。人。を。ち。ま。ん。と。云。族。出。身。ん。す。げ。入。る。を。は
 何。後。の。患。を。除。く。べ。と。夫。を。送。り。練。を。終。り。ん。と。あ。ひ。ら。つ。り。つ。り。ハ

了の地より勅めさせんとす。密に人を武則と遣ひ。稻毛三郎
 重成入道を招はせんとす。稻毛入るに妻も後まゝより一向牧の
 阿。追後を以て北条家の吹峯と改む。入道も亦。奉順のめり
 栄耀月も餘り。奈を寔め。杉倉に至り。北条の事を振ふ。北
 北条の亭と卦。牧の方の持姫を伺ひ。渡りぬ。牧の方も寵
 重厚く。内外は法師と稱せしむ。と云。びくあり。度由早速兵を
 中。遠路の出。苦勞くと。種々養育。その後。開成。折也。企を。猪の好
 斗を。余の。身置しく。斗ひ。多くと。のり。い。元。東。同。腹。中。の。倭。者。ま。れ。ん。
 天晴の川。質。ま。感。入。り。早。い。ひ。や。と。直。ま。名。號。の。亭。を。出。豆
 州。終。呂。寺。と。卦。二。品。禪。室。を。向。ひ。なる。頼。家。卿。の。雅。音。信。の。り。の
 するに。お。め。も。れ。ん。入。る。を。以。て。煥。育。と。い。ふ。り。く。く。川。側。へ。招。也。強。倉。の。と

どもを。見。ぬ。も。ひ。り。り。と。重。成。法。師。面。は。林。の。辨。を。り。え。い。當。時。強
 倉。ハ。や。ま。な。る。に。京。都。を。も。静。ま。り。り。る。い。と。重。と。や。お
 家。相。鏡。の。依。地。より。起。る。長。と。存。在。る。君。ハ。正。一。右。大。將。の。兄。婿。男。は
 渡。り。セ。り。し。故。幕。下。の。兄。子。を。受。も。り。し。諸。臣。帰。代。一。國。家。静
 鑑。り。し。去。年。秋。り。君。を。廢。去。せ。り。し。也。其。時。君。を。立。て。り。と。
 道。又。遠。心。衣。君。の。遺。言。は。遠。く。有。諸。臣。の。一。致。り。し。を。君。に。前。に。也
 桂。奥。の。川。源。中。に。せ。り。夫。も。去。り。し。也。其。後。此。政。を。め。り。し。斗
 せ。の。り。の。い。竹。を。棄。去。り。し。る。行。の。裁。度。あり。ん。や。旧。悪。を。替。め。り。し
 と。古。賢。の。知。り。し。改。む。又。憚。り。す。り。ん。也。其。若。夫。の。名。を。遠。く。い。れ
 ば。た。と。く。上。り。り。名。お。く。呼。び。し。人。も。一。度。の。失。り。と。も。名。を。改。め。り。し。と
 は。今。の。い。前。の。要。を。り。し。と。當。時。の。直。を。稱。名。君。を。由。り。り。

持る君の病牙とく廢一なる。雅う是を致るごとく人。ある軍の世の
乱まんよを案す。隱遁の志ありのまづ。某の右幕府の厚恩
を慕り今入る仕進也。當時のめりまをさるるはあびせ。されは旋
べ兒智斗る。熱傷の外る。君は妙あり。嘆くは公昔くお倉
さん。せん。せん。の聲を慰めをん。為お弟。中桂。由何。交。なる。う。う。
篠倉への。の。を。憐。る。伺。る。由。遂。む。は。北。東。又。ある。を。表。す。内
る。の。無。出。す。ゆ。當。時。の。形。勢。あ。く。は。後。り。素。向。中。安。否。を。問。ひ。ま
らん。故。由。側。が。く。ゆ。べ。武。部。と。生。是。身。小。牙。あ。ゆ。ゆ。於。幸。苦。を。ほ。の。み
は。是。非。ゆ。ら。た。次。身。と。落。候。く。や。れ。頼。家。禪。室。あ。く。け。ら。の。と
ある。居。身。久。重。身。入。る。邪。安。を。震。く。述。懐。を。云。る。る。り。ゆ。渡。は
船。と。は。半。乱。し。聲。憤。を。散。り。ゆ。ん。斗。候。を。尋。ね。ゆ。入。道。中。を。の。ゆ。い

らよゆ。た。ぞ。ゆ。君。の。中。カ。あ。く。の。叶。ゆ。中。法。國。の。士。へ。命。せ。は。君。を
必。ひ。ま。る。族。ゆ。ま。く。ゆ。は。味。方。と。り。る。衣。裁。を。勵。く。也。某。微。力。あ。る
ゆ。ゆ。一。族。郎。本。命。を。御。ち。て。扶。助。し。ま。ん。西。國。の。軍。へ。追。く。斗。美
を。以。て。折。れ。ま。ん。ま。東。國。近。郷。の。面。へ。直。の。中。書。を。ゆ。り。ゆ。は
某。密。よ。れ。を。造。り。お。務。ひ。ゆ。と。左。中。村。母。く。や。め。二。品。禪。室。甚
ゆ。ほ。び。あ。る。ゆ。ゆ。あ。ま。ゆ。ゆ。ゆ。即。時。ゆ。筆。を。降。し。是。殺。通。の。ゆ。を
怒。め。渡。り。身。重。身。入。る。時。日。を。移。し。て。兵。を。發。し。再。ひ。君。を。護。命
へ。拜。せ。ま。ん。ゆ。ゆ。易。ゆ。ゆ。と。早。く。別。是。ゆ。ゆ。北。東。の。亭。に。至。り
時。改。り。對。面。羽。林。禪。室。の。謀。反。の。企。て。頼。み。法。國。の。武。士。を。請。ひ
ゆ。ゆ。ゆ。と。美。る。の。如。果。ゆ。武。州。ゆ。中。書。を。贈。り。是。則。某。ゆ。味。方。は
お。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。使。を。與。る。國。ゆ。後。ゆ



稲毛入道
 好斗
 二品禪室と
 修禪寺
 子
 図
 汎
 汎

星月夜二巻之二

る知の正書を正しく致す。伊豆駿河の間は一味の族れあふべ
動乱の基あつくゆへ早く正買事を早きるべからずと致す。懐中より
致通の正書をその物へ送らせしにへ送らせし知の正書とてて先出
しる。元來時政も。お家々の存命をうけしむるをひのち申して断去
あつねの斗を由りみとあふみりけり。笑壺よとてほび。祝族の好を
といひ。大義を思ひ辨人せしを条神妙と致す。のち致されし
弘明よ及べ。早く斗ふべしと。件の正書を懐中へ尼公へ送り。お家
禪室に謀反明白するより。尼公実朝々中上。お家とゆはれ。い
か。か。か。二品の正書致する也。大よ致されし世の證とるる
扱。老臣亦評定を疑し。その後。あひ斗ふべし旨仰み。さ
致す。大江廣元をよめ。大夫屬入道。信和。田左門尉。茂盛。小

山左門尉朝政。畠山次郎重忠亦を扱は奉せ。正書致す
る。時政。件の正書を見せ。禪室頼家卿。亦致す。正書致す
と。國を荒るる。お家の為。退去させ。お家。上。病。あ
つね。正書。お家の。隠居の。お家。不自由の。お
る。お家。お家の。今。謀反。企て。お家の。不徳。を。顧
みる。お家の。四海の。動乱。を。お家の。甚。道。と。お家の。國。家。乃
為。お家の。習。お家の。宜。他。畏。を。お家の。勅。お家の。載。を。お家の。一
言。お家の。畠山。重忠。の。お家の。賢。一。理。の。お家の。禪。室
は。正。當。君。の。お家の。舎。兄。殊。一。且。お家の。家。督。お家の。依。お家の。ひ。お家の。れ。お家の。他。畏
を。お家の。勅。人。も。禪。室。の。お家の。背。憤。故。意。下。お家の。其。お家の。の。お家の。お家の。叶。お家の。た。お
國。家。の。為。お家の。怨。お家の。の。お家の。父。兄。お家の。お家の。禁。お家の。お家の。お家の。禪。

室謀國への書を送る。そのとき、彼寺におりて守護人衆
 く附あはさるの如し。何者の勅めよ。其書を送る。や。うら
 中は企むるあり。助けある者ある。其事を及んて
 其政よゆめゆ。附並する守護人。何の為ぞや。但しその輩
 室を勤めたる。乱のゆゆお承る。んをわづらふ。何の
 その勅す族を吟味し。殊戮を加へ。禪室は。夜に宿。其何の
 妨げあり。當時。静鑑。當君は。伏し。その上。禪室の書を
 前君を。北界。せめ。當君は。仁と。却て。鉄人。恐怖。其患
 を。振く。又。似る。べ。つ。の。け。は。書。何。者。り。献。む。如。も。や。法。國。へ
 ま。され。と。あり。外。より。新。出。す。も。近。國。の。輩。へ。其。書。の。つ。て。実。否。と
 此の如く。お分る。叔。の。書。を。り。く。新。出。の。大。なる。誠。度。の
 偽。筆。の。疑。あり。う。と。書。を。持。て。使。者。を。同。道。を。姓。名。を
 其。の。面。を。見。知。る。や。其。等。は。其。の。使。者。の。を。捕。へ。此。問。其
 忽。ち。委。細。お。知。り。鉄。人。の。公。つ。る。知。を。明。白。と。速。く。其。名
 實。か。と。悟。り。い。さ。ま。け。の。書。を。な。じ。り。の。を。呼。び。よ。ね。べ。と。二。回。み。な
 う。実。朝。卿。時。政。又。何。者。新。出。や。呼。び。実。否。を。知。る。べ。と。宣
 ひ。時。政。中。忠。の。詞。よ。公。付。後。寺。の。守。護。人。の。北。条。家。の。附。あ
 ら。ば。仰。赤。面。の。辨。り。新。出。の。の。重。成。な。ら。ば。百。皮。せ。ば。強。り。ゆ
 の。ん。と。公。か。と。う。あ。ひ。り。と。持。を。執。牙。の。中。に。と。その。信。あ。る。ゆ
 則。所。入。の。猪。毛。三。郎。法。師。を。せ。ゆ。と。是非。な。る。重。成。を。告。出。し。重。成

星月夜二編卷之二

入道竹下中入人と申へ出何く君も侍所より出りし老臣の歴
 歴正君辺より列候し。新入の美あつて臣等より由らば底気味も
 方から未ゆふ年仗を時政指毛より向し。二品禪室作謀及の如
 を多く見上り条神妙より百々知たり。但し書何者持条波
 使者の姓名を承りしと有るは。重成入道よりと驚れし。一
 邪智を廻りし。申すは。いふも。使者同道より系上仕りんと存
 一が於節夜隠のり。明日の積り。使者を欺り。追当波させ
 夜中逐電仕。その方より。普く見る事共。一向相知は。ど
 残念なる。力及る。使者の面辨。人より。者ふ。偽言を
 紹ひし。和田美盛云。面辨。姓名を。姓名を。姓名を。姓名を。
 此候は。和田美盛云。面辨。姓名を。姓名を。姓名を。姓名を。

早く申すを廻りし。姓名を。姓名を。姓名を。姓名を。
 名も。名も。名も。名も。名も。名も。名も。名も。名も。名も。
 夫中。夫中。夫中。夫中。夫中。夫中。夫中。夫中。夫中。夫中。
 陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。陳。
 り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。
 を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
 て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。て。
 是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。
 武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。武士。
 等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。等。
 義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。義。
 頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。頼。
 文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。文。
 族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。族。
 己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。己。
 使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。
 使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。使。

致通を渡さるる細き。夫と括別。既よ書簡残らば渡さるる。此辺をうく味方とあふ衣る。於る夜中故ゆき。逐電世
 との前後。搦りぬ。而為之。智臣ホ又五將をえ透され。邪智の指
 毛も。以返答を初結りし。辨まりを。時改り。其使重成又敷と
 書簡の渡せり。夜中指毛か。底を。明日後金之。引見
 之を。恐は。逐さる。行る。自筆の書され。謀反相遠る。
 去る。重忠の。知る。貴と罪。昔々。沙汰と止
 守獲人を改め。用を。外の。中。美盛公の内。正
 く時改。斗る。指毛を使。重忠。守獲人
 を吟味。を。その。已。出。再。

指毛ハ頼主。密又。退。

